

みんなにまなびをプロジェクト



城南進研グループは、すべてのこどもたちに等しく学びの機会を得られる環境を提供し、その学びをもとに、将来の夢の実現にチャレンジするチカラを育てます。

《ロゴに込めた想い》

カラフルなカラー

光や太陽をイメージさせる黄色は、「成長」や「明るい未来」、明るく元気な「子どもの快活さ」を連想させます。文字には、多様性やSDGsをイメージさせる、カラフルな8つのカラーを使用しました。

シンプルな円形

シンプルな円形で、印象に残りやすくなりました。また、「丸ごと」という言葉もあるように、丸い形は「誰も取り残さず、みんなに」というプロジェクト名を表現しています。

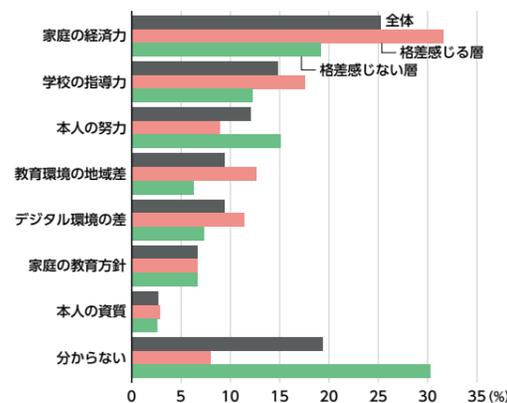
コラム「教育格差」って何だろう？

「教育格差」とは、生まれ育った環境により受けられる教育に差が生まれることです。高度成長時代、給料は上昇が続き、「一億総中流社会」が実現されていました。ところが1990年代に入りバブルが崩壊すると、今まで右肩上がりだった給料も頭打ちとなり、特に2000年代に入ると貧富の差は拡大。従来は経済格差の影響を受けにくかった「教育」にも、格差が表れ始めました。全国の17歳～19歳男女1000人からとったアンケートによると、教育格差を感じる層の約3人に1人が、格差の主な原因は「家庭の経済力」と答えています(図1)。2人以上の勤労者世帯の家計調査によると、特に塾や家庭教師などの補習教育費に顕著な差が出ていることもわかりました(図2)。

さらに、2019年からの新型コロナの影響がそれに拍車をかけました。学校が休校で学びがストップしている間にも、高所得者層は補習教育費を支払うことにより、学びを継続することができました。一方、中低所得者層の“学び”は停滞したまま。また、公立校と私立校のICT教材導入の差も浮き彫りとなり、教育の経済格差はさらに拡大したのです。

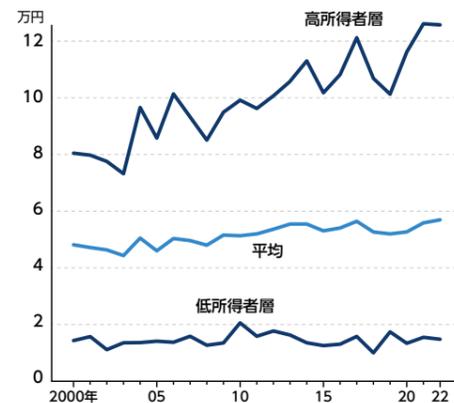
日本の高所得者層が教育への投資を進める一方、中低所得層は家計への教育費の負担が重く、学力差は拡大傾向にあります。また、国立社会保障・人口問題研究所の出生動向基本調査では、子育てや教育にかかる費用を考えて子どもをあきらめる夫婦が多いこともわかっています。日本の未来を担う子どもたちを、いかにして育てていくのか。包括的な視野が求められます。

(図1) 教育格差の主な原因は？



出典：日本財団「第33回18歳意識調査(2020)」

(図2) 年間の補習教育費の推移



出典：総務省「家計調査年報(2022)」、日本経済新聞

「みんなにまなびをプロジェクト」が発足します！

みんなにまなびをプロジェクト



SDGsへの取り組みを強化している当社は、不登校支援や公営塾の運営など、今までも教育格差解消に向けた活動を行ってまいりました。そして今回、教育格差解消をさらに促進すべく発足したのが、「みんなにまなびをプロジェクト(略して「みんな」)」です。発足に向けた想いを、代表取締役社長CEOの下村勝己がお話します。

教育格差解消のために。教育企業として、みんなに学びの輪を広げたい



株式会社城南進学研究社 代表取締役社長CEO 下村 勝己

子どもには「学びたい」という欲求がある

子どもは本来、「学びたい」という欲求を持っています。しかし、教育格差によって、学びにアクセスできない子どもは大変多い。教育企業として、学びのハードルを下げて一人でも多くの子どもたちへ教育の輪を広げることを使命と捉え、本プロジェクトは生まれました。

生まれによって教育格差が生じる現実

教育格差には、経済格差・地域格差の2種類があります。高所得か低所得か・都市か地方かによって、子どもは生まれながらに「学びたい」という欲求がある

子どもの選択肢を狭めないために

教育を適切に受けてこれなかった子どもは、成長してからの選択肢が少なくなる傾向があります。学習習慣のなかった子どもは、成し遂げたいことはあっても実現のための術がわかりません。「みんなにまなび」

子どもの教育の機会は大きく変わります。低所得層の子どもは塾や習い事に通うことができません、塾がない地域の子どもの場合、やはり学びの場が狭まってしまふ。今の日本は、家庭と地域という「生まれ」によって、学力や最終学歴に差がある状態になってしまっているのです。

学びの輪をどんどん広げたい

教育格差には、勉強以外にも旅行や遊びといった、多くの人にとっての当たり前が体験できない、体験格差も含まれます。今後は、このような体験格差解消のための支援も行っていきます。また、この6月に開校した児童発達支援施設「フォレストキッズ」での発達障害児支援や、子ども虐待防止「オレンジリボン運動」を通じた被虐待児支援などにも注力し、みんなの学びの輪を広げていきます。

質の高い教育をみんなに

「プロジェクト」では、夢の実現の根っこの部分は教育によって育まれると見え、地域・経済格差に左右されず、学びの機会を提供することを目的としています。具体的には、「デキタス」をはじめとした、当社が持つ幼児・高校生向けのICT教材を、全国どこでも安価に学ぶことのできる教材として、他の企業様とともに1人でも多くの子どもに提供していく予定です。